

日本映画放送株式会社 第77番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和3年5月18日（火）付
2. 開催方式：新型コロナウイルス感染拡大にともなう緊急事態宣言発令中につき、レポート提出という書面開催にて実施し、ご意見・質問を受け付けました。
3. 委員（順不同・敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・砂川 浩慶・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎

放送事業者：代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
執行役員編成制作局長	宮川 朋之
編成部部長	小川 英洋
編成部	三品 貴志
制作部	塚田 洋子
編成部	三瓶 祐毅
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題

- (1) 審議事項：時代劇専門チャンネル オリジナル番組
「新たな「鬼平」新たな「梅安」製作発表記者会見」
- (2) 報告事項：日本映画専門チャンネル 特集
「『ゴジラ vs コング』公開記念『ゴジラ』シリーズ 4K デジタル
リマスター 最恐画質 8ヶ月(2021年3月～10月)連続放送」

5. 議題 (1)

2021年3月12日、日本映画放送(株)、(株)NTTぷらら、スカパーJSAT(株)の3社は、池波正太郎原作『鬼平犯科帳』『仕掛人・藤枝梅安』の新作製作・主演俳優発表の記者会見を開き、原作者・池波正太郎の生誕100年にあたる2023年に向け、主演に豊川悦司を迎えた新たな「梅安」映画2作品製作すること、そして新たな「鬼平」は、先代・中村吉右衛門の甥である松本幸四郎が演じ、劇場版と連続シリーズを製作することが発表されました。この記者会見は、時代劇専門チャンネルの番組として無料生中継され、同時に各種SNS等でも生中継・無料配信されました。今回の番組審議会では、その模様を編集した再放送版をご覧いただき、以下のポイントを中心にご審議いただきました。

【審議ポイント】

- 記者会見番組および当日の特別編成は、時代劇ファンにとって楽しめる内容であったか。
- 時代劇専門チャンネルの中継のみならず、各種SNS (Twitter、YouTube、LINE LIVE等)で生中継したことは、将来のコンテンツへの期待感を高め、視聴者の獲得や囲い込みに繋がられたか。

6. 議題（1）審議内容 ※文中敬称略

- ・人口の半分を占める 50 歳以上の層は一日 3 時間以上テレビを視聴し、ドラマを楽しむ人が多い。だとすれば、地上波のターゲットをはずれたこの層のための番組はやはり必要だ。
- ・10 年間にわたり製作された 21 作品の成功には、時代劇の更なる魅力を発信し続けた新しいスキームがあったわけで、関係者の才能と努力に、あらためて深い敬意を表したくなる。
- ・司会中井美穂、共同テレビ制作というフジテレビ関係者で手慣れた構成・演出。豊川のビッグ・クローズアップは「大人の色気」で語る時代劇・人物設定に説得力があった。
- ・松本幸四郎は白づくめの和服、梅安役の豊川悦司は黒づくめの洋服で登場したのも、黒澤和子のデザインによる凝った趣向だ。
- ・時代劇専門チャンネルには、時代劇の面白さ、魅力を広く伝えると共に、製作面では、撮影技術・ノウハウの継承という重要な使命がある。そこに求められるものは、人から人への手づくり感だと思う。
- ・記者を集めた会見スタイルはコロナ禍という理由だけでなく、少々時代遅れな感じで、ほかに開催方法がなかったのか。オンラインで時代劇ファンから広く質問や意見をつのり、それに応えてもよかったのでは。
- ・高齢ファンに、いつ、どうやって見られるのか十分伝わったのか心配。チャンネル加入者のために今後もきめ細やかな情報提供を望む。
- ・江戸時代のことを全く知らない若者に対して、新鮮なジャンルとして支持されることを諦めない姿勢は正しい。彼らを取り込むためにも、SNS での生中継は意義があったと思う。
- ・完成予定の 2023 年まで様々なプロモーションを企画されると思うが、是非、大学も巻き込んで欲しい。大部分の学生が 21 世紀少年・少女となっており、時代劇そのものを全く見たことがない者も多い。「大学生×時代劇」として、原作の読み方、過去の映像作品、京都・太秦の紹介など様々な切り口があると思う。
- ・歌舞伎のごとく代々継承される「鬼平」の血筋の芸と、その時々の俳優が個性豊かに彩ってきた「梅安」の色気の芸。それぞれに対して松本幸四郎と豊川悦司という配役は、まず当代では最適解に思われ、この配役だけで大いに期待値があがった。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・インターネットのライブ配信でも多く視聴者にご覧いただき、SNS でも反響を得られたことは大きな収穫だった。時代劇とデジタルメディアはあまり親和性がないようにも予想していたが、打ち出し方によって双方向性を持った広がりを実現できると実感した。
- ・チャンネルを契約していない方も含めて多くの方にご覧いただき、反響があった意義は大きかった。ご意見いただいた双方向のオンラインイベント開催なども今後検討していく。時代劇パートナーズ各社と連携し、継続的な宣伝施策をすると同時に、WEB や SNS でも進捗を積極的に広報し、新たなファンの獲得・拡大に努めていきたい。
- ・2023 年「梅安」、2024 年「鬼平」公開を勘案すると「早すぎる製作発表記者会見」ではあるが、発表したことにより課題と目標設定がより明確になった。

- ・ ネット社会を迎え、放送はその存立を土台から揺るがす事態に直面しております。その一方、50代以上が人口の半分を占める現実が目前に迫っており、シニア層に向けた作品を提供せず、放棄しているかのような放送の現状を、遺憾とも考えています。我々は「時代劇」という文化を揺るぎないものにしたい、という切実な思いから出発し、「鬼平」「梅安」を製作・放送するだけでなく、劇場公開、配信、更にはライセンス戦略を含めた多角的展開を実施してまいります。

7. 議題（2）報告事項

特集 『ゴジラ vs コング』公開記念『ゴジラ』シリーズ 4K デジタルリマスター
最恐画質 8ヶ月(2021年3月～10月)連続放送」

ハリウッド最新作『ゴジラ vs コング』の2021年公開に合わせ、過去のゴジラシリーズのなかからファン待望の8作品を4K デジタルリマスター化し、8ヶ月連続で放送します。2016年に大反響を巻き起こした『キングコング対ゴジラ』<完全版>4K デジタルリマスターの放送からおおよそ5年、今回は1954年のファーストゴジラを含め、4K化と最も相性の良い作品を、東宝と東京現像所と一緒にセレクト。さらに2014年に行われたゴジラ総選挙で見事第1位に輝いた『ゴジラ VS ビオランテ』も史上最高画質で蘇らせます。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2021年8月17日15時より開催予定。